

青森県立五所川原農林高等学校

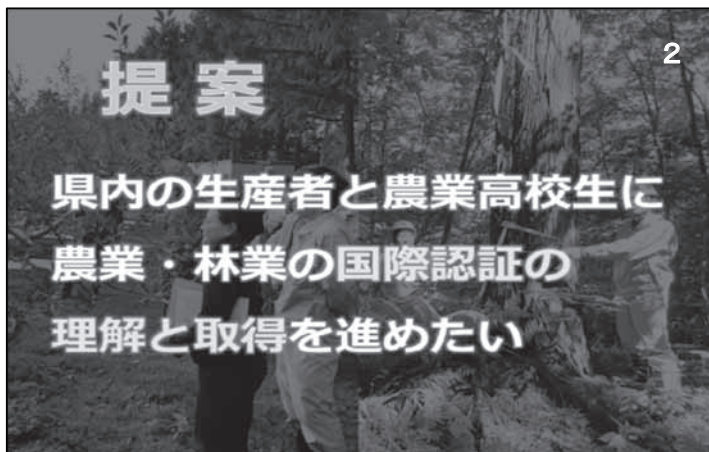
「農業・林業の国際認証取得に関する提案」



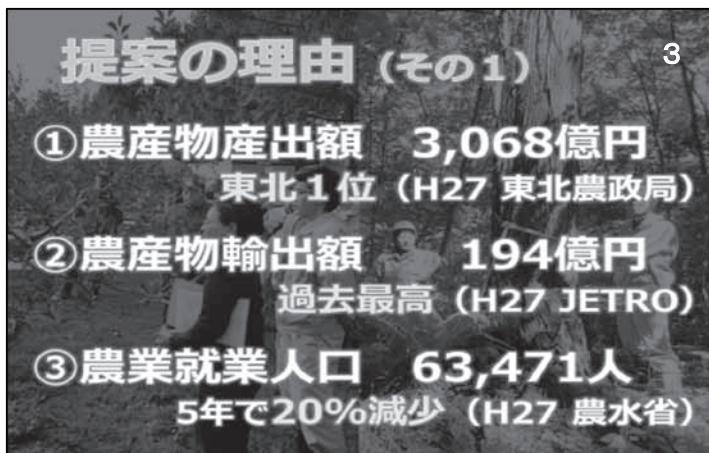
平成29年度高校生模擬議会 青森県立五所川原農林高等学校 平成30年2月8日(木)



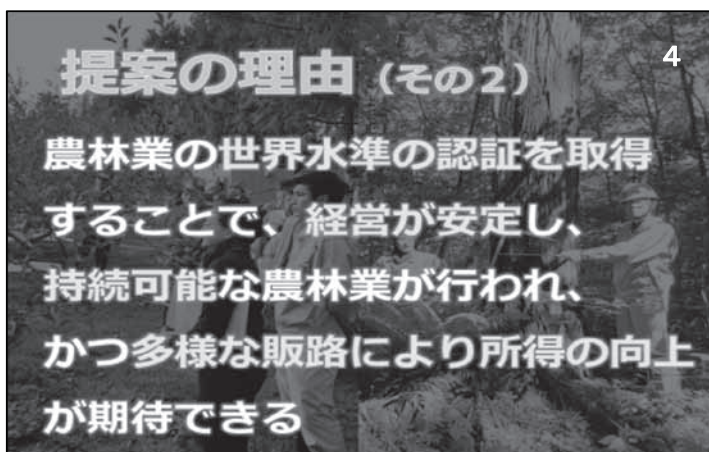
私たち五所川原農林高校は、青森県の農業の未来のために「農業・林業の国際認証取得」に関する提案を行います。(1)



提案の概要です。「県内の生産者と農業高校生に、農業・林業の国際認証の理解と取得を進めたい」ということです。今、世界のあらゆる産業でグローバル化が進み、その波は農業界にも及んでいます。国際的な規格化を避けることは市場規模の縮小を招いてしまいます。青森県の基幹産業である「農業」を将来に向けてさらに力強くしていくことで、県民が幸せになれるのではと考えています。(2)



なぜこの提案をしようと思ったか、理由を説明します。本県の農業には強みがあります。①農産物産出額が、3,068億円と東北1位であること。②農産物輸出額が、194億円と調査開始以来、過去最高であること。本県の農業には、りんごや米、野菜、海産物など、魅力ある農産物が数多くあり、この2つのデータからも大きなポテンシャルをもっていると言えます。また、一方で、③農業就業人口が、63,471人と5年間で約20%減少するなど、産業を支える人材が少なくなっている現状があり、その根幹がゆらぎつつあると言えます。(3)



この提案により、生産者や農業高校生が、農林業の世界水準の認証を取得することで、経営が安定し、持続可能な農林業が行われ、かつ多様な販路により所得の向上が期待できると考えました。(4)



この提案をするに至った私たちの取り組みについて紹介します。私たちは、将来必要となる知識や考え方を、グローバルな視野でとらえ、学習内容に加えています。世界の農業の国際標準「GLOBALG. A. P.」と、森林経営の国際標準「F S C」です。(5)



私たちの学校、五所川原農林高校は、1902年創立、今年で115年目を迎え、男女約440名が在籍しています。(6)



2年前、私たち15人がGLOBALG. A. P. 認証取得のため、立ち上がりました。女子5人を含む、1、2年生です。私たちは、生徒代表チーム「GLOBALG. A. P. チーム」を作り、認証取得に挑戦しました。(7)



定期的に園地を見回り、何度も話し合い、(8)



リスク管理やデータ化などの整備を進め、本校のりんご販売先約 10 カ所以上にトレーサビリティの仕組みを取り入れていきました。(9)



チェック項目は、農業生産や環境、労働者の安全など約 200 項目あります。約 8 時間にわたる審査員の質問には、私たちが全て回答し、2015 年、日本の高校で初となる GLOBALG.A.P. 認証を取得しました。(10)



私たちの取り組みが評価され、本校の全学科で学習する科目「農業と環境」の授業で本格的に GLOBALG.A.P. について学んでいます。15 人から始まった学習が広がり、毎年卒業生全員が GLOBALG.A.P. の知識と経験をもって社会に出て行けるようになりました。(11)



2016 年 9 月、オランダ・アムステルダムで行われた、GLOBALG.A.P. サミットに参加し、世界 49 カ国、約 600 名の代表者が集まるなか、本校は高校では世界初となる「GAP 大賞」を受賞しました。教育機関である高校で取り組んでいることが世界的に大きく評価されました。(12)



パネルディスカッションでは、当時2年生の先輩が、パネリストとして活動発表と意見交換を行い、(13)



閉会式である、クロージングセッションでは、世界各国の代表600人の前で、英語で約5分間にわたり、GLOBALG. A. P. で世界一の農業法人を作りたいという夢を語りました。この時にいただいた大きな拍手は一生忘れられないものとなりました。(14)



国際認証という輸出のパスポートを取得した私たちは、海外の販売実習を次の目標としました。中国四川省成都市の伊藤洋華堂で中国総代表をしている三枝社長から、五農の取り組みに感動したので受け入れたい、というお言葉をいただき、昨年1月、本校のりんごを輸出販売するチャンスに恵まれました。ただ現地で販売するだけでなく、輸出の手続きから出荷準備、現地のマーケティングによる販売の企画を行ってきました。(15)



市内の青果会社に本校のりんごを持ち込み、虫や病気を確認しながら、センサーを通して選果し、選んだりんご「ふじ」約250kgを、発泡スチロールのケースに詰め、中国へ送りました。(16)



成都市は、人口 1,440 万人。東京の人口と同じくらいです。古くからの歴史ある町で、三国志の「蜀（しょく）」の都としても有名です。(17)



伊藤洋華堂は、成都市内に 7 店舗ある高級百貨店で、私たちが販売実習を行うことになった双楠（そうなん）店は、1日に 2 万人の利用者がいるそうです。想像より大きな場所での販売に、身が引き締まりました。(18)



りんごの価格は、1 個 23 元（日本円で約 410 円）と現地の 5 倍の値段に設定。最初はなかなか売れませんでした。中央を高くして立体的に見せ、また、日本から空輸したことが分かるよう、発泡スチロールの容器を見せて、ライブ感を出しました。この見せ方をしたその瞬間、すぐにりんごが売れました。私たちには大変大きな自信になりました。(19)



最終的には自分たちで改善点を見つけ、反省していくうちに、用意したりんご 600 個プラス試食用の 50 個も売れ、予想を上回る計 650 個を 10 時間で完売しました。(20)



21

「挑戦しようという意識が、物事を変える」この言葉は、伊藤洋華堂の中国総代表、三枝社長から頂いた言葉です。GLOBALG. A. P. 認証取得から輸出までを成功でき、国際認証は、世界共通のパスポートであると私たちは実感しました。(21)



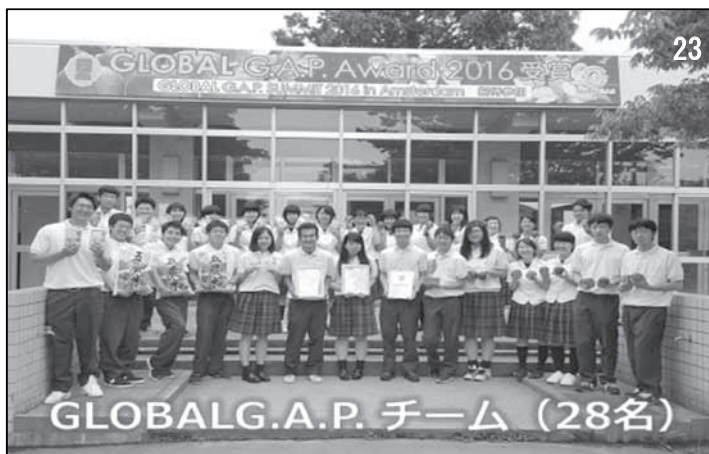
22

リンゴ (H27)

コメ (H28)

メロン (H29)

GLOBALG. A. P. 3年目の今年は、りんご、米に加え、メロンでの認証取得を目指し、12月6日、認証が届きました。(22)



23

GLOBALG. A. P. チーム (28名)

これまでの先輩の取り組みにあこがれ、今年の GLOBALG. A. P. チームはこれまでで最も多い、28名に大きく増えました。(23)



森林認証「FSC」への挑戦²⁴

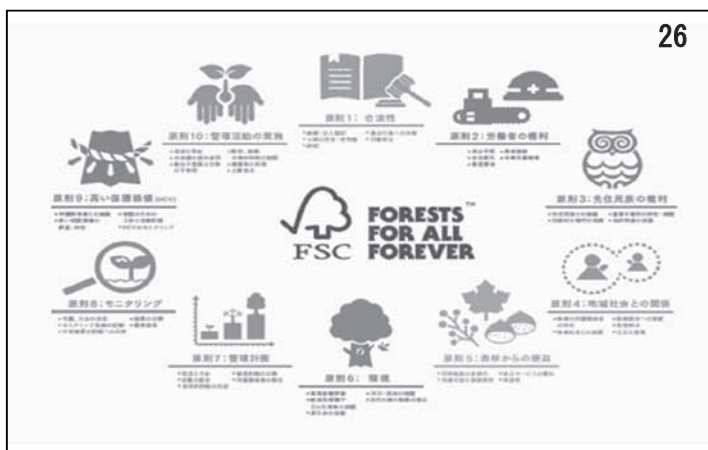
本校で農作物の認証取得活動が進む中、平成29年1月頃、森林科学科でも森林の認証取得へ挑戦しようという声が授業の中で生徒から上がりました。調べたところ、日本で取得されている森林認証は、日本独自のSGECと、世界基準のFSCであることが分かりました。そこで私たちは世界基準であるFSCに挑戦することにしました。(24)

森林認証FSCとは

25

- 森林認証とは、一定の基準に従って適切に管理されている森林であることを第三者が証明し、その森林からの産品にラベルを貼って流通させる仕組みで、消費者が参加する森林保全に向けた取り組みの一つです。
- FSC(森林管理協議会)とは、森林認証を通して適切な森林管理を推進することを目的とした国際民間団体です(本部:ドイツ)。FSCの10の原則と70の基準を定め、認証機関による認定を行っています。

「森林認証」とは、一定の基準に従って適切に管理されている森林であることを第三者が証明し、その森林からの産品にラベルを貼って流通させる仕組みです。そのうち「FSC」とは、森林認証を通して適切な森林管理を推進することを目的とした国際民間団体で、本部はドイツにあります。(25)



26

FSC認証取得のためには、10の原則の中の70の基準、約200のチェック項目をクリアする必要があります。森林管理マニュアルを用意し、土地の登記状況、森林基本図などをまとめ、持続可能な森林生産を行い、生物や環境に配慮し、安全な森林管理を行う必要があります。(26)



27

準備を進め、いよいよ10月の審査の日が来ました。本校のFSCチーム、3年生6名、2年生3名で初日の書類審査に臨みました。審査は70の基準に従い、すべて一つ一つ質問される形で進められました。初日は朝の9時から夕方5時頃まで行われました。(27)



28

2日目は現地審査です。通常の間伐作業を行い、作業の手順や安全配慮について審査が行われました。林業の作業は、授業の一環での実習です。そして午後には、審査員の先生方から、「認証取得を本部へ推奨する。」という言葉いただきました。(28)



29

今回、F S C取得へ挑戦し、調査はとて
も大変でしたが、森林の仕組み、自然環境
への配慮、マニュアルの重要性等を確認
することができ、ますます森林が好きに
なりました。認証は1月29日に届き、高
校としては世界初の取得となりました。

(29)

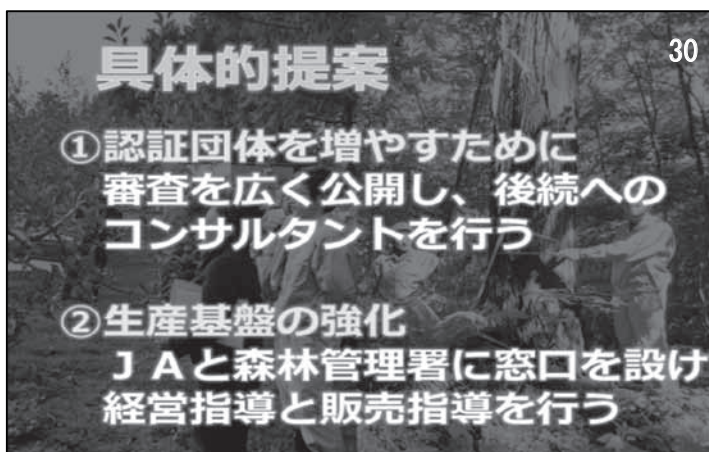
具体的な提案です。

①認証団体を増やすために。認証を受け
る団体は、審査を広く公開し、後に続く団
体へのコンサルタントを行うこととしま
す。そうすることで、認証団体同士でネッ
トワークをつくることができ、認証取得
へのハードルも下げることができると考
えます。

②生産基盤の強化。県内に10あるJ Aと
4つの森林管理署に国際認証への窓口を
設け、経営指導と販売指導を行うことと
します。国際認証を取得した団体を取り
まとめ、経営をより強固なものとし、生産
物を積極的に販売先に売り込むことがで
きます。(30)

この提案により、国際認証の理解と取得
を進めることで、①世界水準の生産者が
地域に増えていきます。②国際認証の理
解が進み、持続可能な農林業が行われる
ようになります。③認証により、国内はも
ちろん、世界をターゲットとした流通・販
売が期待できます。これら3つが進むこ
とで、青森県の基幹産業である「農業」が
さらに力強いものとなり、県民が幸せに
なれると考えています。(31)

世界基準の考え方や知識、管理手法を
身に付けることで、私たちは、世界の常識
を知り、青森はもちろん日本の未来の農
業を支えていけると信じています。10年、
20年先の未来のために、私たちは、国際
認証の理解と取得を進めることを提案し
ます。(32)

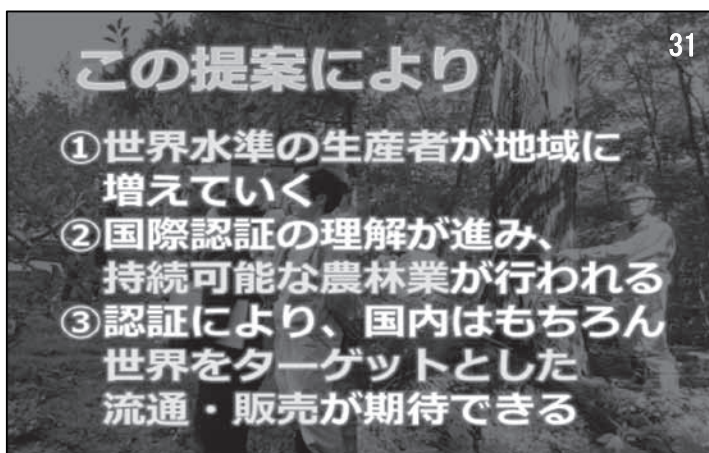


30

具体的提案

①認証団体を増やすために
審査を広く公開し、後続への
コンサルタントを行う

②生産基盤の強化
J Aと森林管理署に窓口を設け
経営指導と販売指導を行う



31

この提案により

- ①世界水準の生産者が地域に
増えていく
- ②国際認証の理解が進み、
持続可能な農林業が行われる
- ③認証により、国内はもちろん
世界をターゲットとした
流通・販売が期待できる



32

農業・林業の国際認証 取得に関する提案

青森県立五所川原農林高等学校

発表者 加藤 雅也、青山 星矢、加藤 雄己
成田 優貴、北藤 未来、土井 基暉
佐藤 陽優

【質 疑】

●^{いぶき しんいち}伊吹 信一議員（公明・健政会）

（伊吹議員）

ただ今、五所川原農林高等学校の皆さん方から農業・林業の国際認証取得に関するご提案をいただきました。私の方から2点にわたってお尋ねをさせていただきたいと思います。

まず1点目の質問でございます。中国での販売実習をされた際に、いろいろな改善点や工夫を重ねられ、その結果、650個のりんごを完売したとのことでありますが、どのような点を改善されたのか、まずお伺いをしたいと思います。

（回答）

まず中央を高くして立体的に見せました。また、箱があると思うんですけども、これを日本から空輸したことが分かるようにしました。それプラス、中国語で販売すると、本当は日本人じゃないんじゃないかと思われるかもしれないので、日本語で話すということを改善しました。

（伊吹議員）

では2番目の質問ですが、今、GLOBALG. A. P. と F S C、2つのお話がありました。私の方からは、GLOBALG. A. P. の認証団体についてお伺いします。

認証団体を県内に増やしていくために、世界的な先駆者である五所川原農林高等学校の皆さんとして、今後どのように取り組んでいかれるのかお尋ねをしたいと思います。

（回答）

GLOBALG. A. P. でも F S C でもそうなんです、学校だけではできることが限られてきます。なので、いろんな方々と交流し、GLOBALG. A. P. や F S C について理解してもらい、広めてもらうことから始めようと思っています。

また、国際認証取得を考えている方々に、私たちが手順や認証のために必要なことについて伝えていければと考えています。

（伊吹議員）

本日は、現場の体験に基づいた、素晴らしいご提案をいただきました。大変感銘をいたしました。今後、議会の質問等を通じて県にも働きかけを進めてまいりたいというふうに思います。

最後にお願ひでございます。今、お話があったように、農業高校の中で、世界認証をけん引している五所川原農林高等学校の皆さん方が、現場で生産された製品を今度はブランディングしていただいて、さらに所得向上につなげられるように期待をしたいと思っています。

また、既に先輩方から受け継いでこられた宇宙毛豆、これについてもぜひ製品化を目指して研究を積み重ねていただきたいと思いますということをお願いして、私からの質問を終わりたいと思います。大変ありがとうございました。

（榎引議員）

私の方からも2つ質問をいたしたいと思います。今年度、森林認証に挑戦されたということでございますが、具体的にどのような点に苦勞をしたのか、お伺いいたします。

（回答）

お答えします。森林管理マニュアルというものを作らなければいけなかったんですが、森林のデータ化をするために実習で認証区域の樹木を1本、1本手作業で調査したことです。特に、整備されていないところでは、藪が多く作業に手間取りました。

（榎引議員）

一つひとつの木に対しての調査もしなければならなかった、大変な苦勞があったのを初めて聞きました。

そこで、今後、国際認証の理解と取得を進めていくために、皆さん方、高校生として、行政、市町村あるいは議会にどのような支援を期待するのか、お伺いをいたしたいと思います。

（回答）

GLOBALG. A. P. やF S Cを取得する際にたくさんの費用が掛かるので、行政の方々に国際認証について理解をしてもらい、認証を取ろうとする方々の支援をお願いしたいと思っています。

（榎引委員）

そうでしたよね。GLOBALG. A. P. を取った時に、私も皆さんの結果を聞いて、農家の皆さん方にお勧めしようとした際に、大変費用が掛かるということが問題になっていました。そういった点では、やはりせっかく認証を受けてもそれを活用できなければ何にもなりませんので、それぞれの自治体、そして議会として、県としてもこれからどのような形で携わっていけるのか、私どもも考えていきたいと思っています。

そして何より、五所川原農林高等学校さんが、マスコミにも大きく取り上げられましたけれども、五農のオリンピック委員会、GOCを設立して、さらにまたこれからオリンピック・パラリンピックに対して、自分たちができることを考えていこうとしている。皆さん方の意気込みがあまりにもすごいなど、びっくりさせられています。

これから人材が不足していきます。皆さんがここで学んだことを、今後、自分たちが社会人になった時に農林業の発展に寄与できるような、そういった仕事に就いていただいて、青森県をもっともっと広めていただきたいというのをお願いして、私の質問を終わります。